

経済マンスリー [原油]

イラク情勢が原油価格の上昇要因に

原油価格（WTI 期近物）は 4 月以降、ウクライナ情勢の緊迫化や不安定なリビア情勢、堅調な米経済指標が買い材料となる一方、米原油在庫増加が売り材料となり、1 バレル 100～104 ドルのレンジで推移してきた（第 1 図）。しかし、6 月に入り、イラク情勢が急速に緊迫の度を増したことを受けて、約 9 ヶ月ぶりに同 106 ドル台まで上昇し、一時的ながら同 107 ドルを上回る場面もみられた。また、北海ブレントもイラク情勢緊迫化を受けて上昇し、足元では 113 ドル前後で推移している。

イラクの産油量の推移をみると、イラン・イラク戦争（1980～88 年）、湾岸戦争（1991 年）、イラク戦争（2003 年）の時期に大きく減少したが、近年は外資の参入もあって回復し、2013 年の産油量は 1979 年以来の高水準となった（第 2 図）。地域別にみると、南部において油田開発が進められており、同地域の産油量が全体の 8 割程度を占めているとされる。

イラクはベネズエラ、サウジアラビア、カナダ、イランに次ぐ世界第 5 位の原油埋蔵量を保有していることから、今後、同国の産油量拡大が期待されていた。しかし、今回の情勢急変を受け、国際エネルギー機関（IEA）は 6 月発表の中期見通しにおいて、イラクの産油能力を前回見通しから下方修正している。

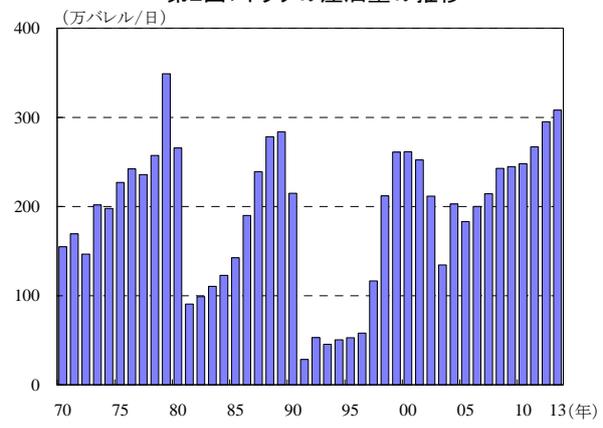
報道によると、イラクでは武装組織が北部にある同国第 2 の都市モスルを掌握し、その後も政府軍との攻防を重ねながら周辺の都市を相次いで制圧している。これまでのところ、産油量の約 8 割が集中する南部の治安は維持されており、原油の輸出に特段の支障は生じていない模様である。ただし、今後、武装組織の南下等により、南部の油田の産油量に影響が及ぶ場合、原油価格が一段と高騰するリスクもある。当面は、イラクを中心とする地政学リスクに注視が必要であろう。

第1図: 原油価格(WTI期近物)の推移
(ドル/バレル)



(資料) Bloombergより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

第2図: イラクの産油量の推移



(資料) 国際エネルギー機関、BP社資料より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

照会先：三菱東京 UFJ 銀行 経済調査室 宮城 充良 mitsuyoshi_miyagi@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊社ホームページでもご覧いただけます。